

# 北九州テクノサポート通信

北部九州地域の産業発展に貢献する

Kitakyushu Techno-Support



北九州 TS

NPO 法人 北九州テクノサポート

〒800-0003 北九州市戸畑区中原新町2番1号

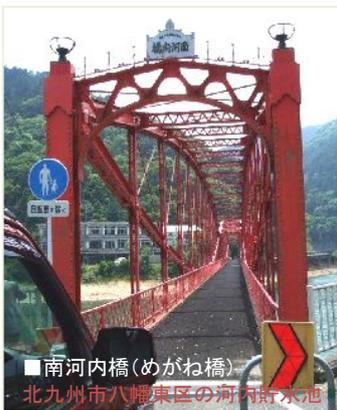
TEL: 093-783-1453 FAX: 093-783-1453

E-Mail: npo-kts@npo-kts.org.jp

URL: http://www.npo-kts.org/

Vol. 11

平成20年 夏号



■南河内橋(めがね橋)

北九州市八幡東区の河内町新水池



NPO 法人 北九州テクノサポート

会長 小川 勝

NPO 法人北九州テクノサポートは、法人化して丸5年を経過しました。先輩諸氏のご尽力、また福岡県、北九州市をはじめ(財)北九州産業学術推進機構等関係機関や大学、企業等のご支援を賜り、この5年間でかなりの実績を挙げる事ができました。また知名度も上がって来たと感じています。中でも安定的な事業として取組んだエコアクション21地域事務局福岡の業務も順調に伸びて、昨年12月中旬に北九州テクノセンター8階806号室に、念願の事務所を設置し事務処理と種々の相談の場を確保するなど環境整備ができました。このような背景のもとに、平成20年度は、持続性のある発展できるNPO法人を目指して、下記の諸施策を推進してまいります。

①新人の採用・当法人の利用促進のための新規なパンフレットの作成、及び60歳前後の方々の会員入会の促進。②事業企画グループの設置と運用(提案された事業対応から提案する事業への転換)③エコアクション21地域事務局福岡も含めた業務のIT活用による効率化。

関係諸機関、企業の皆様の倍旧の支援・協力をお願い申し上げますとともに、会員の皆様の活動への積極的な参画を期待しております。よろしくごお願い申し上げます。

## Topics.1

平成20年度 北九州テクノサポート総会を開催

平成20年6月11日(水)に北九州テクノセンター(北九州市)におきまして、平成20年度総会が開催されました。冒頭、小川会長の挨拶、並びに議長選出し、次の4つの議案について、すべて異議なく承されました。

第1号議案(平成19年度事業報告)

第2号議案(平成20年度事業計画)

第3号議案(定款変更)

第4号議案(役員改選)

### 平成19年度事業報告

平成19年度に実施した主な事業は下記のとおり。

- ①エコアクション21地域事務局福岡業務受託
- ②エコアクション21実践講座
- ③福岡県エコ事業所応援事業のエコアクション21グループ研修業務受託
- ④福岡県自動車関連産業人材育成事業への専門家派遣
- ⑤北部九州地域高度金型中核人材育成事業協力支援
- ⑥エコ・テクノ企業訪問マーケティング活動業務受託
- ⑦企業および大学、公的機関への人材派遣
- ⑧中小企業支援センターへ相談員及び専門家派遣
- ⑨北九州 TLO ライセンス活動業務受託
- ⑩九州大学社会人教育(MOM 講座)への協力

### 平成20年度事業計画

平成20年度は、「モノづくりの支援を通じて、産業振興をはかり、まちづくりに貢献する」を理念とし、企業及び公的機関、大学・高専等と連携を密にして、ニーズに即応した支援や協力・派遣・調査、研究会等を通じ、プロモーターとしての役割を果たす。

今年度は、喫緊の課題である地球温暖化防止、二酸化炭素排出抑制をめぐる自治体の環境産業政策に呼応した協力と支援を進める。特にエコアクション21地域事務局福岡を中心に、中小企業の環境経営をサポートする「エコアクション21認証取得支援」を積極的に推進するとともに、ISOの認証取得や運用に関する支援を展開する。

北部九州自動車150万台生産拠点化構想の具現化にあたって「人材の育成」は、急務であり関係機関と協力し支援する。

中小企業等の「技術力の強化」、「新しい技術の開発」や、「新規事業」へのニーズを収集・把握し、九州や山口県の大学・公的機関と協力してそのシーズを広範に探索し、産官学の連携を支援し、地域の活性化に努力する。組織・運営面では、新しい事業を展開するために提案出来る体制づくり・事業企画Grを設置する。

事業に取組みやすい組織の検討や、管理業務の効率化を図り、さらにKTSの認知度を高めるためのPR資料を作成し、各関係機関・企業等への広報活動を展開する。一方で、活動をさらに広く展開するため、60才前後のかたがたへ参加を呼びかけていく。



NPO-KTS 会員有志一同

### 役員名簿

平成20年7月1日現在

会長	小川 勝
事務局長	尾形 昌彦
副会長	石川 浩、小野 晃一 小林 敏郎、尾形 昌彦

### 支援部会長

技術・経営支援部会長	小野 晃一
産学連携支援部会長	石川 浩
ISO・EA21 支援部会長	小川 勝
ECO 支援部会長	大久保英明
IT 支援部会長	安東 静
広報部長	重藤 将美

### EA21 事務局長

藤原 成種

### 理事

安東 静、石川 浩、石井 剛、磯村福義、大久保英明、尾形昌彦、小川 勝、小野晃一、小林敏郎、後藤禎二、重藤将美、鳥越年高、藤原成種、吉村英俊

### 監事

増田幸一

平成20年6月11日総会により、会長の選出並びに事務局長・副会長・各部会長が上記の通り決定されました。

平成20年度 NPO-KTS 総会風景



NPO-KTS 懇親会風景

## Topics.2



**来賓挨拶**： 福岡県商工部 新産業・技術振興課 課長 藤元 正二 様

NPO 法人北九州テクノサポートの平成二十年総会記念行事のご盛会を心からお慶び申し上げます。また、貴会におかれましては日頃から本県の産業振興にご尽力頂き厚くお礼申し上げます。

昨年は、特に世界の環境都市、北九州市に相応しい取組でありますエコアクション21事業におきまして認証取得の支援など強力に取組まれてきました。また、大学、公設試が有する技術シーズを企業へ紹介する技術移転を活発に展開されました。さらに、福岡県自動車関連人材育成事業につきまして北九州地域の4つの工業高校を対象にした生徒のインターンシップ並びに教員の企業研修等々、会員の皆様にご尽力頂き誠に有難う御座いました。この場をお借りしまして小川会長をはじめ会員の皆様に深く感謝申し上げますと共に厚く敬意を表する次第です。

県では関係機関との連携の下に北部九州自動車 150 万台生産拠点のプロジェクトを推進しており、地元企業の参入を強力に支援するなど、自動車関連産業の集積及び雇用の促進を目指しているところですが、最近では製造拠点だけでなく、開発拠点開設の動きも出て来ており、北部九州地域の拠点性が益々高まってきております。

また、ロボット、ナノテクノロジー、半導体、バイオ、水素エネルギーなど、次世代を担う大型の戦略プロジェクトを推進中ですが、これらの技術の基盤である“ものづくり”技術の支援を通じて県内ものづくり産業の生産性向上への取組み、人材育成、技術技能の継承などへ支援しています。特に水素エネルギーについては今年度から来年度にかけて北九州地域、特にエコタウン地区を中心に、水素エネルギーの新しい姿をみせていこうという取組みを現在着手しております。

その他、中小企業に対し無担保、無保証の「元気福岡資金」の資金面での支援の他、県工業技術センターをはじめとした産学官協力による技術開発支援並びに経営・販路開拓などに関する指導など、経営革新や新たな事業分野への進出を支援しております。また中小企業の皆様方にとって知的財産は重要な事項であり、現在でも知的所有権センターを通じて様々な支援活動を行っていますが、例えば特許庁からの受託事業を受託出来るような中核的な支援機関を現在検討中で、出来れば今年中に設立したいと準備を進めております。

これらにつきましてもテクノサポートの皆様の日頃の活動、ご協力が大きな支えであると期待しております。今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 平成19年度の支援部会活動状況

### ■技術・経営支援部会

部会長 小野晃一

平成18年度に引き続き、平成19年度も中小企業支援センター（FAIS）や大学、公的機関へ相談員・専門家を派遣するとともに、昨年4月にオープンした、北九州イノベーションギャラリーのデータベース造りに協力した。



イノベーションギャラリー入り口



年表ディスプレイ

さらにエコ・テクノ2007においては、やまぐち産業振興財団との協働事業として、山口県内の中小企業が開発した環境にやさしい製品や技術の販路開拓支援を実施した。



エコ・テクノ2007会場

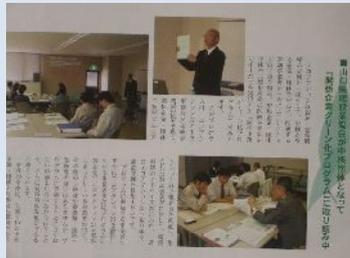
### ■ISOEA21 支援部会

部会長 小川 勝

ISO9001、ISO14001の内部監査員養成研修を3件受注した。

エコアクション21改訂版2004は平成17年4月から発行され、3年目の平成19年度は認証・登録への動きが活発化した。

特に北九州市、福岡県、下関市などの自治体及び山口県建設業協会が主催する（写真）認証取得のためのグループ研修が活発に実施され、エコアクション21地域事務局福岡とともに活動した。



### ■産学連携支援部会

部会長 石川 浩

平成19年度は「金属プレス成形金型産学連携研究会」に引き続き平成17年度から実行中の中核人材育成事業（「北部九州地域高度金型中核人材育成事業」の『絞り金型設計講座』）へ協力支援を通じて自動車関連を主力とする金属プレス金型企業の金型設計技術者の育成に貢献した。

また、福岡県内で最も多くの自動車産業が集積する北九州地域において、4県立工業高校と地域産業界、行政等が連携し、優秀な人材育成を目指す福岡県自動車関連人材育成事業にも積極的に参画することが出来た。



人材育成進捗部会



3次元CAD実習



化学実習実習



PLC制御実習

一方、平成18年度に引き続きFAIS知的財産部より北九州TLOシーズ案件のライセンス契約活動の受託を受け、平成19年度分は平成20年3月31日で業務完了した。



TLOライセンス活動説明会



産学連携部会活動

尚、(財)九州産業技術センターにおけるマッチングコーディネーター活動も平成18年度に引き続き継続して実行し成果を挙げている。また、九州大学大学院工学府の「ものづくり工学研究センター」より社会人を対象とした中核人材育成コースMOMの企業への紹介と受講生募集への協力を依頼され実行した。

## Topics.3



### 来賓挨拶 : 財団法人北九州産業学術推進機構理事長 阿南 惟正 様

貴会におかれましては設立以来地域企業の支援や産学連携のコーディネート活動など幅広く活動され、北九州の産業発展に大いに貢献して頂いております。

昨年12月には、ここテクノセンタービル8階に独立した事務所を開設し、新しい体制の下で機関誌の刷新やエコアクション21認証取得の積極的支援など益々活発な活動を展開されております。

私共、財団法人FAISは北九州学術研究都市を活動の拠点として、昨年は自動車産業の今後の発展を担い、産業界のニーズに対応した研究開発支援と実践的な人材育成を推進するためカーエレクトロニクスセンターを開設しました。そしてキャンパスの中のハード面の整備として5番目の産学連携施設となる「技術開発交流センター」が間もなく、この7月に完成予定であり、企業や研究機関の更なる進出が期待されるところで。

またFAIS中小企業支援センターでは、貴会の皆様のご支援ご協力をいただき、中小企業への効果的な支援を行い、平成19年度の窓口相談件数は850件を超え、販路拡大の支援では6社が約6千万円の売上増加に結びつけました。また自動車産業への新規参入や事業拡大の支援へも力を入れ15社へ148回の生産管理指導や6社に技術力向上や人材の確保育成の助成を行って参りました。これらの支援は中小企業のビジネスチャンスの拡大、ひいては北九州の産業発展に結びつくものと確信しております。あらためて皆様方のご支援・ご協力をお願いする次第です。

昨今の石油をはじめとする原材料の高騰など、特に中小企業にとっては厳しい経営環境が続く中、テクノサポートの皆様の果たす役割は以前にも増して重要になってきています。皆様の企業OBとしての貴重な経験や技術・専門知識を生かして、今後更に大きな力を発揮していただくことを期待しております。

## 特別講演 「ホンモノ産学連携のすすめ」

### Topics.4



### 九州工業大学 客員教授 長田純夫 様

偽装設計、偽メール、賞味期限改ざん、偽称再生紙 etc. 最近、産も政も官も偽物はやりで、昨年はどうとう“偽の国”になりました。幸い学には今のところそういう兆候はありませんが、真理を追究するのが本分なので当然と言えば当然でしょう。

大学の使命はその制度が明治時代に確立して以来、教育と研究が両輪とされて来ました。しかし平成7年11月、科学技術基本法が制定されたことにより社会貢献、すなわち、産学連携が第三の役割として明文化されました。教育をしない大学、研究をしない大学はあり得ませんが、産学連携をしない大学は、法に照らせば偽大学ということになります。学の偽装要因がここに潜んでいるかもしれません。

慣性の法則は人心にも当てはまります。これまで教育と研究で長年やってきて、急に「社会貢献に舵を切れ」、と法を強いられても転覆したら元も子もありません。しかし教育と研究が並立してきたように、従来の行き方に矛盾しない方法があります。

教育と研究のバインダーは真理です。最高学府たる者は最高の教育を授与するために最新の真理を研究によって取得しなければなりません。産学連携は最先端の事実や真理を獲得する最適の場であり、従来と同ベクトル上にあります。

また、法は産学連携の手法までは言及していません。ホンモノとニセモノを峻別することも真理探究を旨とする学の役割です。

以上の観点に立ち本日は、①産学連携が官学主導になっている構造的要因 ②利益相反から利益互惠に転換する簡単な方法 ③我が国は中小企業立国であることの証明 ④シーツ発信型よりニーズ対応型が高打率 ⑤一方通行のTLOから双方向のTRO (Technology Respondent Organization) の設立へ、についての話題提供です。



## EA21 地域事務局福岡の活動状況

### ■エコアクション21地域事務局福岡

事務局長 藤原成種

昨年度において、佐賀市、北九州市及び下関市(新規)各自治体イニシヤティブ・プログラム、山口県建設業協会関係企業グリーン化プログラム(新規)及び福岡県エコ事業所応援事業集合コンサルティング(新規)を受講した事業者が、本年度初頭から順調に認証・登録の申請をしてきており、ISO・EA21 支援部会の協力を得つつ円滑に審査業務を推進している。



本年度は上記機関と協力関係を継続できるように活動するとともに、さらにエコアクション21の普及活動に努めた結果、新たに安川電機サプライチェーングリーン化プログラムが加わり、環境ISO山口倶楽部グリーン化プログラム(山口県建設業協会関係企業グリーン化プログラムを含む全県プログラム)が成立する見込みである。今後グリーン化プログラムもますます活発になるものと期待される。エコアクション21認証取得への促進活動を通じて、CO<sub>2</sub>・廃棄物の削減及び節水ほかに貢献できるよう努力を続けてゆく所存である。

### カーズル産業株式会社

6月12日、小林、重藤両理事が同社本社工場を訪問、渡邊健司社長から懇切丁寧なお話をお聞きした後、工場施設を見学しました。

#### ■会社の沿革と業況

会社設立は昭和45年で、建材用人造大理石の製造でスタートしたが、程なく日用品製作に転身し、手始めに換気扇カバーの製作販売を始めた。以後フィルターが主力製品となり、換気扇はもとよりレンジフード、空気清浄機等に対応した各種フィルターを開発・製造・販売している。

最近では差別化技術としてフィルター表面に接着剤を塗布し花粉や埃を吸着させたり、プラスチックフレームを伸縮可能にしたり、紙を折り曲げて簡単にできる安価・軽量型フレームを考案したり、次々と新しいアイデア商品を送り出し、業績は堅調に推移している。

ちなみにフィルターはペットボトルをリサイクルした綿から不織布を自製して使用している。

#### ■今後の展望と課題

ゴミとなるものを再利用するため、「リカルド(Re 軽土)」という庭土を試作中である。フィルター製造中に発生する不織布の端切れを赤玉石の代わりに、合馬の竹を粉砕して土の代わりにしたものである。事務所周辺に置かれた試験鉢では、自然薯、トマト、ゴーヤ等が元々良く育っていた。

将来ベランダなどに自然薯を植えると恰好の日陰が出来、冷房費が2度分安くなると考えているとのこと。(ただし、広いベランダを確保するためには固定資産税や建築基準法がネックとなるようである)



渡邊社長



伸縮自在なプラスチックフレーム



試作中の「リカルド(Re 軽土)」

#### ■KTSへの期待

今後ともKTS(北九州テクノサポート)には情報提供を続けて欲しい。また、工場見学などで気づいたことはどんどん提案してもらいたい。

#### ◇会社概要

- 本社・工場 北九州市門司区新門司1丁目9-6 TEL093-481-1212
- 代表者 代表取締役 渡邊健司 設立 昭和45年(1970)
- 資本金 2,000万円 従業員 約45名
- 事業内容 レンジフードフィルター、換気扇フィルター、空気清浄フィルター、園芸用品、生活便利品、蛇口アダプター等の製造販売

URL <http://www.casle.co.jp>

### 株式会社 大創

6月9日、小野、重藤理事が同社を訪問、尾辻社長から懇切なお話をいただきました。

#### ■会社の沿革と業況

会社の設立は昭和49年(1974)、新日本製鐵株式会社に入社する商社マン尾辻啓志が創業・設立した。社名は「創造的な大きな仕事をやりたい」という想いから大創と名づけた。



尾辻社長

小さい頃からモノづくりに興味をいだいていた氏は仕事の関係で物を売る事業を始めたが、物売りはモノを造る苦しさ、楽しさを理解して始めていいモノが売れると考えていた。幸いにも、設立当初から八幡製鉄所との取引が出来、当初はめっきラインの周辺機器などを販売。現在では金属・電機・石油化学関連の工業用計測器やボイラー、めっき用電極などを扱っている。

#### ■今後の展望と課題

本業は商社活動であるが、生来のものづくり好きが昂じて、平成10年(1998)にガスケットレスフランジを九州工業大学など地域の力を集めて開発した。

このフランジは、パッキン(ガスケット)なしでパイプの継ぎ手部分からのガス漏れを防ぐことが出来る優れたもので、フランジの構造イメージを根本的に変えた新しい発想の製品です。



GLフランジ



GLフェルニール

このことは、水素やヘリウムなどの漏れやすい気体を扱う装置などのように微量漏れが即致命傷となる装置への採用が大いに期待される。

#### ■KTSへの期待

北九州のようにモノづくりの地域では、行政や大学などの公的機関の支援も大切であるが、身近に存在し、分野を超えて気軽に何でも相談できるような組織があることは、より心強い。技術の分野は、一地域や日本の枠を飛び越えて、今では世界と瞬時につながりを持っている。北九州から液体や気体の微量漏れ対策の重要性をぜひ発信して欲しい。

#### ◇会社概要

- 本社 北九州市八幡東区西本町4-5-1 TEL:093-681-7195
- 代表者 代表取締役社長 尾辻 啓志 設立 昭和49年(1974)
- 資本金 1,000万円 従業員 5名
- 事業内容 金属・樹脂・セラミックスなどの表面処理関連装置及び資材、石油化学品及び化成品、電子機器及び応用製品、各種測定器、省エネルギー製品、ガスケットレス(GL)フランジ

URL <http://www.daisojp.com>

### ■事務局便り

事務局長 尾形昌彦

事務局にとって前年度の大きなエポックは、昨年12月中旬に北九州テクノセンターの8階 806 室に、念願の事務所を設置したことです。効率的な事務処理と相談・会合の場の環境整備ができました。平成20年度の事業には、順調に伸びているエコ・アクション21地域事務局福岡を中核的的事业に成長させることや事業企画グループの設置と運用などを挙げています。

業務成果を上げ皆様に喜ばれるよう、より効率的な業務運営を目指していく所存ですので、関係諸機関、企業の皆様はじめ関係各位のご支援・ご協力のご指導をお願い申し上げます。

### ■会員・賛助会員の募集(当法人は、会員の会費で運営されております)

企業の第一線をリタイヤされた方の第二の人生を地域社会発展のために貢献・恩返ししてみませんか…? 皆さん方が持つておられる知識・技術・経験・人脈は、次の社会に伝えなければならないし、それは義務でもあり権利でもあります。これからの本格的な社会貢献の時期なのです。当NPO法人を利用して、地域社会の潤滑剤として役立てて下さい。

## 編集後記

北九州テクノサポートニュースをリニューアルしました。出来るだけ、各支援部会の事業活動内容が分かりやすくする努力をしました。会員並びに地域の中小企業・行政機関の方にも広く「北九州テクノサポート」をご利用下さるようお願い致します。

広報部長 重藤将美



北九州 TS

《詳細情報は下記ホームページから》

<http://www.npo-kts.org/>

賛助会員の申し込み受付中:ホームページから申込用紙をダウンロードして下さい。技術・経営の発展を支援します。

NPO 法人 北九州テクノサポート  
会報「北九州テクノサポート通信 Vol.11」

平成20年7月10日 印刷発行

●発行・編集:NPO 法人北九州テクノサポート  
北九州市戸畑区中原新町2番1号 北九州テクノセンター内  
TEL/FAX:093-873-1453 E-mail:npo-kts@npo-kts.org.jp